

編集室

* 今回の特集では、国際交流の経験談を集めることを企画させて頂いた。いろいろな形で国際的に活躍されている方々の経験を共有することで、これから国際交流を考えている人への参考となったり、そうでない人への啓発となったりすることを期待して特集を企画した。

* 個々の経験は一つの事例であり、それだけですべてを知ることはできない。できるだけ多くの方々の経験を特集することを心掛けた。それでも、紙面の制約もあり、今回の特集だけでは、十分な数の体験を伺うことができていない。お話を伺いたい方はほかにもたくさんいた。今後、このような企画を通じて、更に多くの方々の経験を共有できるとよいのではないかと思う。

* 執筆者の方々はどうなとも忙しい方ばかりで、記事の執筆をお願いするのは大変心苦しかったが、企画の意図を御説明したところ、そうであればと快諾して頂いた。執筆者から頂戴した原稿を読ませて頂くと、リアルな経験とそこから得られた教訓と思いを感じることができた。

* 私自身は今から十余年前に米国の大学に客員研究員として会社から約1年間派遣された経験がある。米国のトップクラスの大学には世界からトップクラスの学生が集まる。彼らは勉強や研究にとっても熱心であり、質と量ともに充実した研究・教育環境のもとで切磋琢磨していた。私も大いに刺激を受けた。お金では測れない価値ある経験をさせて頂いた。帰国後も、幾つかの国際会議の運営、本会通信ソサイエティの国際交流事業、国際標準化等へ参画させて頂き、様々な形で国際交流を経験させて頂いた。

* 日本から大リーグに行き活躍しているプロ野球選手が多くいる。現地のマスコミから取り上げられ、プレーや人柄が伝えられ、現地のファンからも愛される選手もいる。電子情報通信の世界でも、多くの日本人が海外で活躍し、海外の人々に日本人や日本のことを知ってもらい、親近感を抱いてもらえるようになってうれしい。海外で活躍する日本人が、海外のことを日本に紹介し、お互いに理解を深め合う。これが国際交流の究極の姿ではないだろうか？

* 本号で会誌編集特別幹事としての私の仕事は終了である。2年間もの間、常に頭のどこかに会誌編集のことがあ

たので、これでようやく解放されるという晴れ晴れとした気持ちがある。一方で、ようやく会誌編集のこつがつかめてきたところで今後の編集に生かしたいと考えていたところもあり、残念な気持ちでもある。この辺りは後任の方に引き継いで、より魅力的な会誌作りの参考にして頂こうと思う。

* この2年間、私は会誌編集特別幹事として、ほぼ毎月一回の頻度で開催される、会誌編集委員会、ニュース委員会、編集連絡会のそれぞれに出席させて頂いた。

* 会誌編集委員会では編集長、編集理事、編集特別幹事、会誌編集委員の方々にお世話になった。「解説」、「講座」、「学生／教養のページ」、「オピニオン」等をはじめとする各コーナーの記事や特集号の企画案を編集委員が持ち寄り、作業部会単位に分かれて審議し、最後に全体審議を行った。日常の編集や企画の作業は、電子メールや電話を活用して進め、編集委員会の準備をした。扱う記事の量が多いので、仕事量が最も多かったが、やりがいもあった。

* ニュース委員会では編集長、ニュース委員の方々にお世話になった。会誌の「ニュース解説」の記事の編集が仕事である。各ニュース委員からの提案の審議・採決、最近の報道記事の調査を行った。一字一句を読み上げてゲラの確認を慎重に行った。専門的な内容を専門家でない読者にも分かりやすくすることに苦労した。

* 編集連絡会では編集長、編集理事、各ソサイエティの編集長あるいは副会長、和・英論文誌等の編集委員長、編集幹事等の方々にお世話になった。会誌以外の出版物の編集業務も知ることができた。私のが外れな意見を言うたび、温かく御指導頂いた。

* 会誌の編集・企画に携わる中で、毎月欠かさず会誌を出版することは大変な作業であると実感した。本会の事務局長をはじめ、編集に携わっている職員の方々が日々献身的に編集業務に携わっていることを知った。

* 私が会誌編集に携わる中でお世話になった方々へ心より感謝すると同時に、会誌の今後の発展をお祈り申し上げる。

(編集特別幹事 塩本公平)